

日赤なごや

Vol. 55
2017. Winter



名古屋第一赤十字病院

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院
救命救急センター・総合周産期母子医療センター
地域中核災害医療センター
造血幹細胞移植推進拠点病院



Message

新年のご挨拶

Professional Style

三宅 杏季さん

ふれあい通信

- ピンクリボンフェスティバルを開催しました!
- 美しき琵琶の調べで、健やかに。
中国琵琶コンサート、今年も好評でした。

おクスリ豆知識

おくすりの剤型についてのお話



新年のご挨拶

皆様、新年明けましておめでとようございます。

院長 宮田完志

昨年は建築完了後10年を経過した建物の大規模修繕が完了しました。外観に大きな変化はありませんが、一層強固な建造物になりました。来たるべき大災害に備え支部

と協力し災害訓練も定期的に行っています。ライフラインの確保にも留意し、病院までの上水道は耐震管が設置されています。井水も常時使用しており、電気も2系統の配電



になっています。増大するニーズに対応するため、NICUと内視鏡室の拡充を行いました。ソフトウェアの部分では、導入後7年が経った電子カルテを更新しました。これを支えるハード部分もすべて一新しました。これで最新の状態になり、新たに幾つかの新しい機能が追加されました。一例は感染管理の能力の向上で、感染治療・感染予防に大きな貢献ができると考えています。院内の細菌の情報、感受性のある抗菌薬の情報等が、全ての部署で把握可能となりました。地域医療に必要な紹介状、逆紹介状の作成能力も向上しています。他科に診断を依頼した返事は、依頼者が読んでいるかどうかを電子カルテ上で確認でき、医療安



全に貢献できると思います。これは当院独自の機能です。

新しい電子カルテシステムは、今後導入される日進月歩の新しい診断機器にも対応できると思っています。大きな設備投資が必要でしたが、職員の頑張りで完遂できました。

常に病院を最新の状態にして地域医療に貢献できるようにするのは、当院の使命の一つです。今年は2台のCTを更新する予定です。現在不具合があるわけではありませんが、今までより更に能力の高い機器を整備し、皆様のお役に立つことを目指しています。外傷等で広範囲な画像が必要な場合も、構築する時間を短縮できます。精細な画像が得られることによって心血管系の診断に役立つと思われる。名古屋地区では初めての導入となる予定の機種は、造影剤の減量が可能となり、ご高齢の方等腎機能を気にしながらの撮影も安全性が増し、CTの能力を生かすことができます。

更に、増加する血管系の疾

患に対応するため、脳卒中センター（仮称）の開設に向けたステップを踏み出します。治療が飛躍的に進歩しつつある今日、個々の医師、コメディカルの方々には活躍して貰っていますが、更に一步前に進め一年をかけ形にしていこうと予定です。

病院の院外からの評価を得るため、健診センターの機能評価を6月に受審し、無事認定を取得できました。9月には東海北陸厚生局の適時調査を受けましたが、問題点は指摘されず終了できました。第三者から評価していただき認定が得られれば、当院の姿勢の正しさが認められたこととなります。

今年も新年にあたり、明るい展望を述べさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いたします。



Professional Style

プロフェッショナル
スタイル

Vol.55

表紙のひと
耳鼻咽喉科 言語聴覚士
みやけ あき
三宅 杏季さん



「きこえる」喜びを 少しでも多くの方に届けたい。

「話す・きく・食べる」を支援するのが 言語聴覚士の仕事です。

毎日の暮らしの中で、言葉によるコミュニケーションや食事はとても大切です。けれども、病気や加齢などの理由によって、速やかに話せなかったり、食べ物を噛んだり飲み込んだりするのが難しくなることがあります。言語聴覚士は、様々な検査や相談、訓練などを通して、患者さんが少しでも暮らしやすくなるように支援しています。

私は耳鼻咽喉科に所属していますので、主に「きく」お手伝いをしています。例えば、補聴器外来で補聴器が必要と診断された患者さんに、きこえの検査や補聴器の説明、貸し出し試聴などを行います。その時、「補聴器を上手に活用するためには、きこえのトレーニングと適切な調整が必要」であることもお伝えしています。補聴器は眼鏡と異なり、つけたらすぐに効果が表れるものではないからです。

よく「補聴器をつけてもうさいだけ」という感想を耳にされると思います。これは「今まできこえなかった音が一気に耳に入ってきたため、脳がビックリする」ことが原因です。

私たちは大音響のお店の中でも会話を楽しむことができますが、それは、「ききたい音」ときかなくていい音を脳が自然に選り分けているためです。

補聴器を使用する場合も同様で、ききたい音を自然に選り分ける脳のトレーニングと機器の調整期間が必要です。当院では、医師と認定補聴器技能者、言語聴覚士などが連携し、患者さんのより良い「きこえ」を細やかにサポートしています。

「ここに来てよかった!」という 患者さんの声が励みです。

「補聴器は私の体の一部」と言ってくださった患者さんがおられます。使いはじめ

の頃は「周囲の音が入りすぎて辛い」と外しがちで、常用するのが難しい状況でした。しかし、時間をかけてご本人とご家族にしくみを説明し、補聴器の調整を繰り返すことで、「きこえることは素晴らしい」と実感していただくことができました。

私が言語聴覚士をめざしたのは、祖父のようにきこえに不自由している方が笑顔になれたらいいと思ったからです。補聴器は万能ではないけれど、上手につきあうことでコミュニケーションの幅は大きく広がります。生活を豊かにするひとつの選択肢として、多くの方に正しく活用していただけたらうれしく思います。

入職して3年。今後も経験を重ね、今以上に患者さんに信頼される言語聴覚士になりたいと思っています。

おクスリ 豆知識

第42回

おくすりの剤型についてのお話

飲んでいるお薬の中に、ファモチジンD錠、プレタールOD錠、ジプレキササイデス錠あるいは、シングレアチュアブル錠などといったお薬はありませんか？

近年、このようなお薬の“剤型”がどんどん増えてきています。これらがどういった特性を持ったものかご存じでしょうか。D錠やOD錠は口腔内崩壊錠のことを指します。口腔内崩壊錠とは、そのまま飲み込むことを前提として作られている従来の錠剤とは異なり、口の中で唾液や少量の水で溶かしたり、かみ砕いたりして服用できるお薬を言

います。OD錠は水なしで服用が可能で、D錠は少量の水で服用する薬剤です。サイデス錠も口腔内崩壊錠の一種です。またチュアブル錠は水なしで服用できますが口の中では溶けないため、かみ砕いて服用します。

これらの剤型は、先発品のお薬ではなく、後発品（ジェネリック医薬品）で服用しやすさを目的に改良されたものも多くあります。そういった点からジェネリック医薬品を選んでみるのもよいのかもしれませんが。

また、口腔内崩壊錠はその性質から“割れやすい”あるいは“湿気やすい”というデメ

リットがあり、ほかの薬剤と一緒にまとめること、つまり一包化が難しいとされていました。しかし、これまで一包化の対象としていなかった口腔内崩壊錠について再度検討し、一部を本年9月より一包化することになりました。これによって、従来別々になっていたお薬をまとめることが可能になり、服用忘れや服用間違い等を防ぐことにつながると考えています。

日頃からお薬が呑み込みにくく感じておられる方は、医師、薬剤師にご相談ください。

ピンクリボンフェスティバルを 開催しました!

10/29

秋晴れの平成28年10月29日(土)、ピンクリボンフェスティバル2016を開催しました。

当院では、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを多くの方々に知っていただくために、乳がんの正しい知識や自己検診に関する啓発活動を日頃より実施しています。その一環として毎年10月のピンクリボン月間に同フェスティバルを開催しており、今年で4回目となりました。

テーマは、『～あなたとあなたの大切な人のために乳がん検診を受けましょう～』。

会場の内ヶ島講堂では、子供会やサークルによるロックソーランやフラダンス、高校生による合唱や、昨年に引き続き医療者の立場としてがん研有明病院 乳腺外科部長 岩瀬拓士医師のご講演のほか、体験者の立場として美容ジャーナリスト 山崎多賀子さんの講演が行われました。

そのほか、マンモグラフィー撮影室見学や自己検診コーナーなどの展示・体験コーナーもあり、日本赤十字社マスコットキャラクターハートラちゃんと地元ゆるキャラ「ひできよん」の共演もあり多くの方にご来場いただきました。



◀ハートラちゃんとひできよん(右)
▼マンモグラフィー撮影室見学の様子



美しき琵琶の調べで、健やかに。 中国琵琶コンサート、今年も好評でした。

12/19

平成28年12月19日(月)、中国琵琶コンサートが開催されました。

この催しは、中国琵琶の第一人者、涂善祥さんとそのお仲間の皆さんにより、患者さんの回復を願って続けられている恒例のイベントです。

今年も、涂善祥さんと奥様でソプラノ歌手の矢野留美さん、同じくソプラノ歌手の川地未奈子さん、ピアニストのマリ・リーさんのほか16名のコーラスの方にもお越しいただき、素晴らしい演奏と歌声を会場で披露いただきました。

西棟1階のホスピタルモール(玄関ホール)を会場に行われ、患者さんやお見舞いで来院された方だけでなく、地下鉄をご利用される方等地域の方々にも来場いただきました。

「十面埋伏」や「シルクロード」、「この道」、「アルハンブラ宮殿の思い出」、「アヴェマリア」のほか、ピアノにコーラス16名を加えての「聞こえる」、「ここに幸あり」の美しい歌声に引き続いて、最後に涂善祥さんの中国琵琶が再登場し、代表的なクリスマスソングである「ジングルベル」、「きよしこの夜」を披露いただきました。

最後に来場者のアンコールに応じて「オー・ソレ・ミオ」を披露いただき、来場者の拍手が会場に響き渡りました。



Information
お知らせ

昇竜パワーでがんばろう!

中日ドラゴンズ選手による 小児医療センター慰問と 「なごやかトークショー」開催

「大島選手、FA取得後も中日に残っていただき、ありがとうございます。来季も応援しますね!」

ドラゴンズの選手と間近にふれあい、直接会話ができる、恒例の「なごやかトークショー」が平成28年12月14日(水)に内ヶ島講堂で開催されました。

登壇したのは、大島洋平選手、松井佑介選手、祖父江大輔選手、高橋周平選手、小笠原慎之介選手。体力づくりのコツや特技、選手の好きな呼び名など、会場から次々と質問が寄せられました。「苦手な対戦相手は?」の問いに、「神ってる鈴木誠也」と祖父江選手が答えると、「僕はスゴってる菅野(笑)」と高橋選手が続ける等、始終和やかな雰囲気トークが繰り広げられました。

その後、選手の皆さんは小児医療センターを訪ね、病室から出られない患児を慰問しました。

「かっこいい!!」家族みんながドラゴンズファンで、何日も前からこの日を楽しみにしていたという患児は、サポーターズユニホームを着て、笑顔で選手を迎えました。

選手たちは、各病室でひとりひとりに優しく話しかけ、サインボールをプレゼント。握手や記念撮影を行う等、患児とご家族を元気づけました。

その後は食堂にて交流会を開催。「来年の目標を漢字一文字にすると?」というお題に、大島選手は「昇」と記し、「来季は上だけ見て頑張ります」と力強く答えました。

患児から選手へは、慰問の御礼に「がんばれ めざせ 日本一」と書かれた手作りメダルをプレゼント。選手たちは丁寧にメダルを受け取り、「皆さんにパワーをもらいました。来年はよい報告ができるよう頑張ります。早く元気になってドームに応援に来てください。」とメッセージを返しました。



がんサロン「コスモス」 開催のご案内

がんによる悩みや不安を自由に語り合う場、がんサロン「コスモス」を開催いたします。予定は下記のとおりです。ぜひご参加ください。



- 開催日** 平成29年 1月24日(火) 2月28日(火) 3月28日(火)
- 時間** 15:00~16:30
- 会場** 東棟2階 会議室1

健康教室を開講します

参加無料

- テーマ** 「関節リウマチ」
- 座長** リウマチ科副部長 石川 尚人
- 講師** 看護師 係長 金築 美衣子
医療社会事業司 田畑 真規子
- 開催日** 平成29年2月23日(木)
- 時間** 14:00~16:00
- 会場** 東棟2階 内ヶ島講堂
- 参加費** 無料

外来診療担当医表

※担当医は都合により変更になる事がございますのでご了承ください。 2017年1月1日現在

診療科目		月	火	水	木	金	
内	血液	小澤	森下	宮村	小澤	宮村	
		尾崎	佐藤	川島	中島	池野	
		—	PM 中島	加賀谷	PM 森下	—	
		PM 吉野	PM 大引	PM 佐藤・池野	—	PM 加賀谷	
		清田	安田	尾崎	尾崎	清田	
	内分泌	柳沼	岡崎	—	渡邊/PM 吉藤	柳沼	
		遠藤	市田	青井	今井	市田	
	腎臓	真野/PM 小森	中村	後藤	真野	後藤	
		馬淵	田中	馬淵	渡邊	田中	
		渡邊	村尾	森	小森	村尾	
神経	神谷	交代/(花木)	神谷	柴田	柴田		
	光田	嶋野	清水	近藤	森下/(交代)		
	野村	岡部	安田	—	尾崎		
呼吸器	新患	青山	横山	田宮/西山	野村	高納	
	再診	野村	佐野/PM 西山	青山	横山	野村	
消化器	—	篠塚/PM 高納	PM 木村	高納/PM 篠塚	横山/PM 田宮		
	土居崎	春田	鷺見	山口	春田		
	大橋	山口	村手	吉岡	土居崎		
	鷺見/PM 高野	吉岡/PM 青井	長谷川	村手/PM 河村	青井		
総合診療	河村	PM 橋口	橋口	PM 長谷川	PM 大橋・八田		
	大庭	松久	隔週第1・3・5 PM 大庭	PM 榛葉	—		
小児科	午前	福見	加藤(朝)	安田	鬼頭	岸本	
		落合	大城	坂口	福見	八田	
		濱口	大萱	三井	加藤(夜)	竹内	
		浅井	橋本	水谷	(交代)	濱崎	
		—	—	—	—	北井	
	午後(専門外来)	循環器	羽田野	—	—	羽田野	—
		血液	—	加藤(朝)	PM 土居崎	吉田	(交代)
		神経	—	—	竹内	大萱	夏目
		腎臓	—	渥美	—	—	—
		新生児発達	鬼頭	中山	新井	安田	大城
フォローアップ	神澤	田中	—	—	—		
予防接種	—	—	濱口	—	加藤(夜)		
乳児健診	(交代)	(交代)	—	—	—		
小児内分泌	—	—	—	—	八田		
アレルギー	(交代)	—	—	—	—		

●予防接種・乳児健診は10日前までにご予約ください。詳しくは受付にお問い合わせください。

診療科目		月	火	水	木	金
脳神経外科	稲尾	—	—	稲尾	(交代)	岡本
	服部	(交代)	(交代)	—	(交代)	—
	木部	(交代)	(交代)	波多野	(交代)	藤谷
皮膚科	西田	澤田	澤田	澤田	澤田	澤田
	南部	西田	西田	西田	西田	西田
泌尿器科	(交代)	南部	南部	南部	南部	南部
	服部	平林	鈴木(弘)	鈴木(弘)	服部	服部
女性泌尿器外来	鈴木(省)	—	永山/松井	佐野	平林・松井/永山	—
	加藤	加藤	鈴木(省)	加藤(新患)	—	—
●新患は(木)にご来院ください。						
産婦人科	新患	安藤	手塚	柵木	齋藤	栗林
	再診	長尾/PM 江崎	水野/PM 齋藤	坂堂	三宅	猪飼
	生殖内分泌・内視鏡	齋藤	安藤	—	安藤	安藤
	化療外来	—	(交代)	(交代)	(交代)	—
	妊婦診	柵木	三澤	西子	福原	手塚
パースセンター	PM 栗林	PM 三宅	—	—	PM 福原/三澤	—
	助産師	助産師	助産師	助産師	助産師	助産師
眼科	佐藤	(交代)	佐藤	(交代)	小林	(交代)
	(交代)	(交代)	(交代)	(交代)	(交代)	(交代)
耳鼻咽喉科	新患	寺田	鈴木(淳)	柵植	伊藤	小林
	再診	柵植	寺田	寺田	柵植	伊藤
リハビリテーション	小林	伊藤	鈴木(淳)	小林	鈴木(淳)	—
	石川	洪	堀井	大澤	山本	—
放射線科	山田	山田	山田	山田	山田	—
	平澤	平澤	平澤	平澤	平澤	—
●詳細は受付にお問い合わせください。						
歯科口腔外科	新患	大岩	佐藤	(交代)	野田	(交代)
	再診	佐藤	大岩	—	大岩	—
		野田	野田	—	佐藤	—
早川	早川	—	早川	—	—	
緩和ケア科	緩和ケア外来	水曜日 PM 湯浅				

外来診療のご案内

- ◆初診 …… 総合案内で『診療申込票』に必要事項をご記入の上、保険証・紹介状・各種医療証書を添えて、新患受付にお出ください。
- ◆診療受付時間 …… 午前8時20分～午前11時 (緊急および予約されている方はこの限りではありません) 土曜・日曜・祝日 年末年始(12月29日～1月3日)
- ◆休診日 …… 日本赤十字社創立記念日(5月1日)
- ◆セカンドオピニオン 専門外来 …… 詳しくは患者相談室までお問い合わせください。 患者相談室 電話052-485-3503(直通)

お問い合わせ先 **052-481-5111** (代表)



当院は、病院敷地内全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。

人間ドックのご案内

年に一度の健康管理をしてみませんか?

- ◆健康管理センター …… 電話にてお問い合わせください(予約制です)
- ◆受付時間 …… 月～金曜日(休診日を除く)午前8時50分～午後5時20分 電話052-471-3855(直通)

休診情報はホームページでご覧いただけます。

<http://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/>

TOP » 診療科部門 » 休診情報



名古屋第一赤十字病院

日本赤十字社
NIPPON RED CROSS SOCIETY

〒453-8511 名古屋市中村区道下町3丁目35番地
TEL.052-481-5111(代表) FAX.052-482-7733
<http://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/>

理念

皆さまとの出会いを一期のことと心得、その痛みを分かちあい、苦しみを共にしつつ、一日も早く健康の幸せを喜びあえるよう努めます。

基本方針

- 1 皆さまが安心できる癒しの森といたします。
- 2 高度・良質で安全な医療をいたします。
- 3 災害救護活動を積極的に行います。
- 4 周産期・小児及び救急医療を充実します。
- 5 医療連携を密にして地域完結型の医療を目指します。
- 6 職員の教育・研修を推進します。
- 7 健全経営を維持するよう努めます。

臨床研修の理念

医療に必要な不可欠な知識や技術の習得により、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る能力を身につけることを目的とする。名古屋西部という都市部における社会構造・高齢化など地域にとって必要な医療を理解し、在宅医療などの社会医療サービスとの連携を、地域医療貢献の修得を目的とする。